

○ 山元支援学校の様子



来校者への掲示



児童生徒の安否確認の様子

ニ ガソリンスタンド情報収集と学校への情報提供

災害対策本部事務局等から情報提供を受け、給油可能なガソリンスタンドの情報を各学校に伝達した。

ホ 学校再開に向けた各校との調整

県教育委員会が定めた4月21日の学校再開に向け、3月15日、校舎の安全性や学校運営に関わるインフラの確認、給食提供の可否、登下校手段の確認等の「開校に向けたチェックフロー」(別紙)を提示し、各校に学校再開目標日までの対応を依頼した。

ヘ 学校再開までの流れ

3月12日に3月14日から18日まで休校とすることを決定し、県立特別支援学校に連絡を行った。以降の学校再開までの流れは以下のとおりである。

3月16日：3月中の授業の打ち切りを決定した。

3月19日：始業式・入学式は4月21日を目途(石巻支援学校については、5月12日を目途)に準備を進めることを決定した。

3月29日：教育課程編成について、標準を下回ることも認めるが、学習に著しい遅れが生じることのないよう可能な限り必要な措置を講ずることとする基本的な考え方を各県立特別支援学校に示した。

4月13日：各県立中学・高等学校とともに、県立特別支援学校の始業式・入学式の日程を公表した。

4月20～22日：石巻支援学校を除き始業式・入学式を実施した。

5月12日：石巻支援学校の始業式・入学式を実施した。

ト 県立学校支援チーム派遣

石巻支援学校では、石巻赤十字病院からの要請を受けて、全介助を要する避難者を受け入れていることから、介助を行っている教員への支援として、各特別支援学校に支援を要請。各特別支援学校では、2泊3日のローテーションで人的支援を実施した。

(避難所となっていた石巻西高等学校に対しても、特別支援学校の教員を派遣)

石巻方面の人的移動においては、船岡支援学校及び金成支援学校の学校が有する学習バスを利用し、他課及び他部局の人や物資搬送も行うなど、組織を越えた対応を実施した。



(石巻支援学校の様子)

チ 学校給食実施上の課題への対応

山元支援学校において、給食の提供を受けていた山元町立中浜小学校が被災し、給食提供の目処が立たないことから、山元町や他の支援学校と実施に向けた調整を行った。給食再開まで支援団体（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）から弁当支援を受け、8月からは亙理町学校給食センターから完全給食を受けている。

リ 学校再開後の対応状況

(イ) 学校の再開について

石巻支援学校を除き4月21日に再開した。石巻支援学校は避難所解消に時間を要したことなどから、5月12日に再開した。

学校運営においては、児童生徒の避難場所等を反映したスクールバス運行経路の変更を運行受託業者に依頼するなど、弾力的に対応した。また、全校完全給食を6月中旬より実施した。

(ロ) 児童生徒の支援について

遠隔地から自力通学をしている児童生徒については、公共交通機関の状況を踏まえた寄宿舎の一時利用対応を実施した（夏季休業前まで。聴覚支援学校及び小牛田高等学園で各1人）。

気仙沼支援学校においては、道路状況等の兼ね合いから志津川方面のスクールバス運行において、夏季休業前まで、NPO法人による輸送サービスを受けた。

これまで、各特別支援学校の教員が家庭や避難所に出向き、児童生徒への心のケアや指導を実施してきたが、学校再開を受けて、スクールカウンセラー派遣回数を増やすなどの対応をしている。

特別支援教育センターに対し、指導主事による避難所等の巡回教育相談を依頼・実施した。

(ハ) 被災児童への経済的援助（就学奨励事業）について

国の第一次補正予算により措置された「被災児童生徒就学支援等臨時特例交付金」により積み増しした「高等学校授業料減免事業等支援臨時特例基金」を活用し、震災により就学等が困難となった幼児児童生徒を対象とした特別支援教育就学奨励事業を実施している。

(二) 震災体験を踏まえた各校への指示・対応

事務長会（5月14日）において、震災体験を踏まえた各校の対応を確認した（危機管理マニュアルの見直し、備蓄、避難訓練など）。

事務長会等の機会において、発電機整備の要望を受けたことから、医療的ケア対象児童在籍校（10校）より、順次発電機を配備した（NPO法人の協力もあり、年度内に全校に配備）。

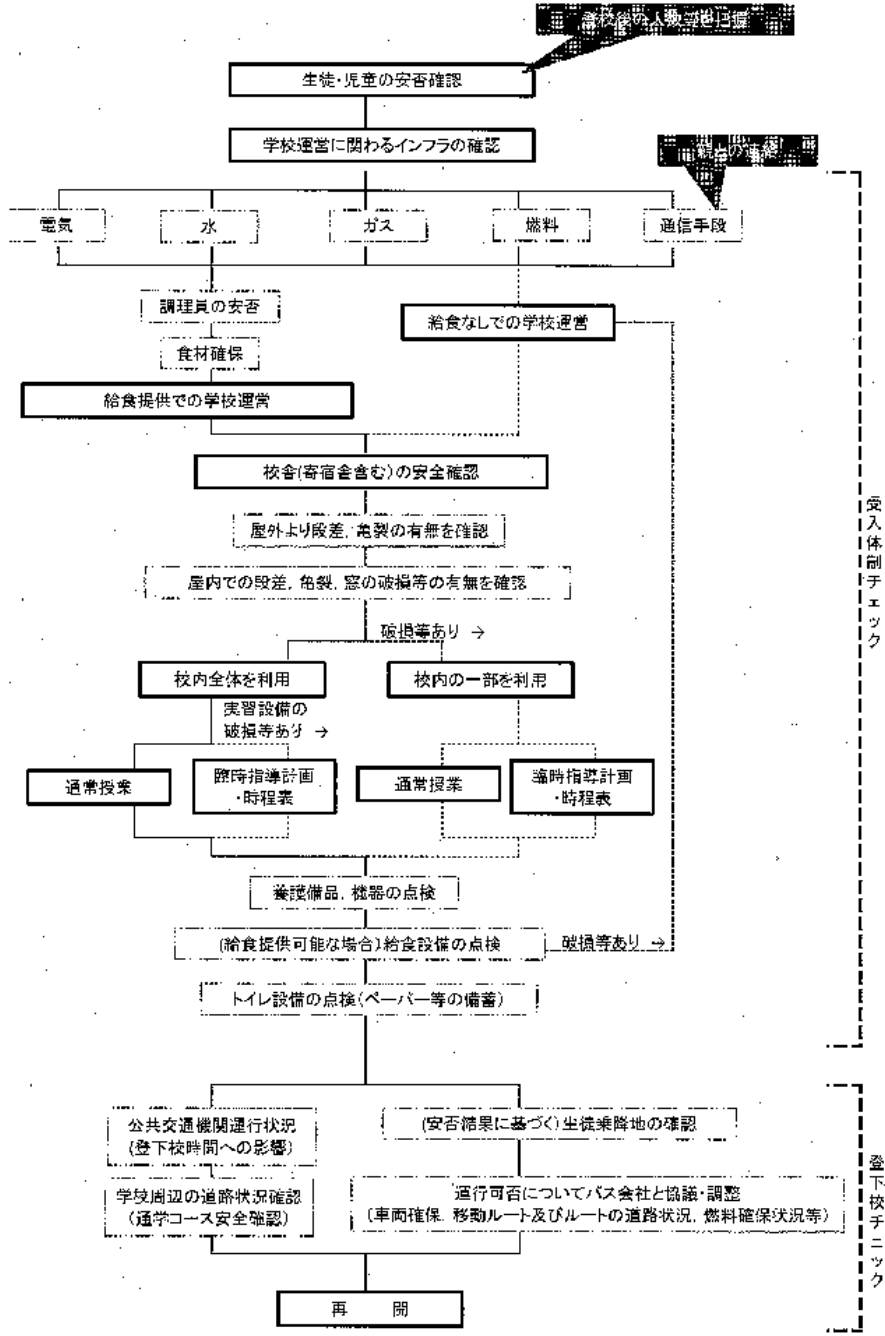
8月26日から9月3日までの間に各校に赴き、備蓄品の状況等、震災後の対応を改めて確認した。

9月14日、県内の特別支援学校長会において、各校の状況を説明し、情報共有を図った。

学校再開に向けたチェックフロー

2011/3/22

学校再開に向けたチェックフロー



受入体制チェック

登下校チェック